分野	51	脱炭素	通番 99
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
地球温暖化対策（COOL CHOICE）推進事業	一般	4	1	8	11,093,149	環境政策室

事業の概要

2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、気候変動の「緩和策」の両輪とされる、「省エネ」の推進と「再エネ」の普及を一層進めます。そのため、市民が行うCOOL CHOICEへの経済的支援を行うとともに、事業者等との連携を強化し、各主体一丸となって脱炭素化を進めていきます。また、多少の気温上昇が避けられないとされる未来の市民のくらしを守るため、啓発をはじめとして「適応策」を進めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	COOL CHOICEの実践を対象とする補助金の利用件数					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
572（令和2年10月末）	目標	587	602	617	632	647	
	実績	598	676	792			

・小学生の親子を対象にミニソーラーパネルを使った「再エネ工作教室」を実施し、発電実験や工作を通して温暖化対策についての理解を深めました。
・本事業による啓発効果を参加者以外へも広げるため、事業の様子は市ホームページでも情報発信しました。
・COOL CHOICE実践補助金を補正予算で拡充し、拡大する電気自動車のニーズにも対応し、設備投資を伴う市民の温暖化対策を支援しました。
・服飾分野における資源循環を促進し、PET繊維焼却由来のCO_2排出を抑制するため、事業者と資源循環型社会形成の推進及び温暖化対策に関する協定を締結しました。

再エネ工作教室

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	温室効果ガス排出量	温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数（発電するのにどれだけのCO_2を排出するか。）に左右されます。そのため、東日本大震災を契機とするエネルギー政策の動向により、排出係数の増減に近い動きとなっています。	44

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・COOL CHOICE実践補助金の対象としている設備は、後年度にわたりCO_2排出を抑制する効果をもたらします。 ・各補助メニューの交付実績は、薪ストーブの設置補助3件（300,000円）、住宅窓の断熱改修補助16件（615,000円）、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助20件（2,742,000円）、次世代自動車の導入補助65件（6,500,000円）、家庭用燃料電池システムの設置補助12件（600,000円）であり、特に次世代自動車の導入補助が、令和4年度22件に対し、大幅に伸びました。

課題等

・「再エネ工作教室」のような小規模イベントは、参加者数が少ないことから、市ホームページでもイベントの様子を紹介するなどし、啓発効果を高める工夫をしています。一方、不特定多数の人が集まるイベントでの啓発など、温暖化対策を広める手法はほかにも考えられることから、効率と啓発効果の高い方法を模索します。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・2050年ゼロカーボンシティの実現のため、既にいくつかの事業者と協定関係を構築していますが、今後そうした事業者と連携した取り組みを具体的に進めていきます。

分野	51	脱炭素	通番 100
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
公共空間のゼロカーボン化推進	―	―	―	―	―	環境政策室

事業の概要

省エネ仕様への更新や再生可能エネルギーの導入を積極的に進め、施設の特性を踏まえながら、施設で使う電気のゼロカーボン化を進めるとともに、ZEBに関しても、計画段階から実現可能性を検討し、事業を進めていきます。ZEBでない場合においても、環境性能に関する評価を持つ指標を意識するほか、雨水や井戸水、木材の利用など、総合的な環境性能に配慮した整備を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	ゼロカーボン化に類する公共空間の累積数 ※ゼロカーボン化に類する公共空間には、ZEB READY・再エネ電気の導入施設等を含む。					単位	施設
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
0（令和3年度）	目標			1	2	2	
	実績			1			

・老人福祉センター「竹寿苑」の老朽化に伴う移転再整備工事として、「健幸すぽっと」の建設事業を進めています。同施設の供用開始は令和6年度の予定ですが、既に令和4年度に設計ベースで本市公共施設では初となるZEB READYを達成し、令和5年度から工事着手しています。
・当該建築物の高断熱化を図り、エネルギー効率の高い設備を導入することで、基準となるエネルギー使用量より50%以上の省エネを達成しています。
・その他、京都府のZEBアドバイザー派遣事業を活用し、長岡第三小学校のZEB READYによる建替えを見据えた情報収集を行いました。

健幸すぽっと完成イメージ

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・第三期環境基本計画では、ZEBに関して、施設の特性を踏まえつつ、計画段階から実現可能性を検討し、事業を進めていくこととしており、他の計画でも整合をはかり、全庁的に認識共有を行っています。 ・その結果、「健幸すぽっと」が本市公共施設では初となるZEB READYの認証を取得するにいたりました。
課題等	・ゼロカーボン化の手法の一つとして、再エネ電気の購入という手法も考えられますが、長岡京市生活環境審議会からは、再エネ電気を購入する前に、太陽光パネルを設置するなどの再エネを生み出す取り組みも必要との指摘を受けています。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・公共施設を新たに整備するときなどには、第三期環境基本計画にのっとり、施設の特性を踏まえつつ、計画段階からZEBの実現可能性を検討し、事業を進めていきます。 ・ZEB化以外のゼロカーボン化の手法も検討しており、JR長岡京駅東口駅前広場のゼロカーボン化では、非化石証書を活用した手法を予定しています。

分野	52	資源循環	通番 101
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいっそう進んでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
一般廃棄物等の適正処理及び減量化啓発事業	一般	4	2	1	669,028,095	環境業務課

事業の概要

長岡京市一般廃棄物処理基本計画に基づき、生ごみ、紙ごみ、プラスチックごみを中心に更なるごみの減量とリサイクル推進、食品ロス削減のための啓発活動を実施します。また、保育所や小学校への出前授業を通して、資源や食べ物を大切にする心を育てます。家庭系一般廃棄物においては、指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識を高め、ごみの減量を進めていきます。また、事業系一般廃棄物においては、事業系ごみ減量のしおり、減量計画書の提出、展開検査を通した啓発等により、ごみの減量を進めていきます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標①（～R3年度）	1人1日当たり収集ごみ量（家庭系）					単位	g/人・日
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
535.4（令和元年度）	目標	524.3	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	
	実績	491.4					

指標①（R4年度～）	【家庭系】1人1日当たり収集ごみ量（資源ごみを除く）					単位	g/人・日
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
456.5（令和元年度）	目標		452.3	448.1	443.9	439.7	
	実績		393.5	374.7			

指標②（～R3年度）	1日当たり搬入ごみ量（事業系）					単位	t/日
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
17.7（令和元年度）	目標	13.7	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	
	実績	17.7					

指標②（R4年度～）	【事業系】1日当たり搬入ごみ量（市外からの搬入を除く）					単位	t/日
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
16.7（令和元年度）	目標		16.5	16.3	16.2	16.1	
	実績		16.2	15.7			

・リユースの選択肢を増やすことでリユースを更に促進するため、不要品一括査定サービス「おいくら」及び地域の情報サイト「ジモティー」と連携し、リユースの啓発を行いました。
・リユースショップ実行委員会によるリユースショップを1回実施し、668品の再利用につながりました。
・保育所4園、小学校10校、中学校4校で給食調理くずリサイクル事業を実施しました。
・食品ロス削減の取組の推進のため、市役所玄関ロビーにてフードバンク長岡京によるフードドライブ（食品寄付活動）を12回行い、1,154個の寄付を受けました。
・保育所4園、小学校10校でごみに関する出前授業を行い、児童を通じて食品ロス削減やごみの減量、適正排出について啓発を行いました。
※令和3年度の目標値は平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画（以下「計画」という。）による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。

連携するリユース事業者

おいくら？

ジモティー

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	ごみの総量	ごみの総量は、令和2年度以降は減少傾向が続いています。	48

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・令和5年度の家庭系1人1日当たり収集ごみ量（資源ごみを除く）は374.7g/人・日となり、令和4年度の393.5g/人・日と比較して18.8g/人・日減少しました。また、令和5年策定の計画に基づく目標である448.1g/人・日よりも73.4g/人・日小さい値となりました。 ・令和5年度の事業系1日当たり搬入ごみ量（市外からの搬入を除く）は15.7t/日となり、令和4年度の16.2t/日と比較して0.5t/日減少しました。また、令和4年策定の計画に基づく目標である16.3t/日よりも0.6t/日小さい値となりました。

課題等	・家庭からの1人1日当たりの収集ごみ量は減少傾向にありますが、長岡京市の人口は増加傾向が続いているため、家庭からの収集ごみ量が増加する可能性があります。 ・事業所からの搬入ごみ量は減少傾向にありますが、経済状況や企業の活動状況によっては、事業所からの搬入ごみ量が増加する可能性があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・ 長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標（減量化、再資源化、最終処分量削減）に向けて、3つのコンセプト（減らす、育てる、考える）に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 ・ごみとして排出する前にリユースという選択肢を促進するために、引き続き民間事業者と連携しリユースの周知と啓発を続けます。 ・食品ロス削減のために市民や事業者にフードドライブへの協力をお願いするとともに、フードバンク長岡京の活動を支援します。 ・事業系搬入ごみの更なる減量に向け、事業系ごみ減量のしおりやチラシを活用し、ごみ減量と適正排出の啓発を続けます。

分野	52	資源循環	通番 102
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいっそう進んでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
分別によるリサイクル推進事業	一般	4	1	8	8,989,775	環境業務課

事業の概要

資源の有効活用と減量意識の高揚を図るためには市民参加型のごみ減量施策が重要であるため、自治会や各種団体など地域レベルの活動に対する支援を行います。また、古紙類のリサイクルを推進するために、市民にとって利便性の高い拠点回収の環境整備を図ります。あわせて指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識とリサイクル意識を高め、再生利用率の向上を目指します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		再生利用率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
13.4（令和元年度）	目標	21	13.8	14.3	14.9	15.4	
	実績	14.8	15.2	14.9			

・古紙等を排出しやすい環境を整備するため、古紙回収を行う団体に対して助成金交付等で団体を支援し、1,502tの古紙等の回収につながりました。さらに市役所（平日及び第3日曜日）並びに中央公民館（開館日）での古紙回収ステーションを継続して開設し、180tの古紙等を回収できました。
・サントリーグループと長岡京市・向日市・大山崎町・乙訓環境衛生組合で使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」リサイクル事業を引き続き実施しました。
・適正な資源物の排出を促進するため、分別ステーションでの指導等を行いました。
※令和3年度の目標値は、平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画（以下「計画」という。）による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。

中央公民館の古紙回収ステーション

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	リサイクル率	令和2年度までリサイクル率（府基準）の低下傾向が続いていましたが、令和3年度には上昇に転じました。	47

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・令和5年度の再生利用率は14.9%となり、令和4年度と比べて0.3ポイント低下しました。また、令和4年策定の計画に基づく目標値（14.3%）と比較すると0.6ポイント上回る値です。 ・令和5年度の古紙等の回収量は、令和4年度と比べて8%（140t）減少し、資源物から再資源化したものも令和4年度に比べて4%（57t）減少しています。ごみの総量も4%（753t）減少しましたが、ごみの総量の減少率よりも再資源化したものの減少率が大きくなったことから再生利用率は低下しました。

課題等

・リサイクル率上昇のためには、資源物や古紙等を適切に排出しやすい環境を今後も維持し、資源物や古紙等の回収量を増やすことが必要です。
・容器包装の簡素化や軽量化等により、資源物の回収量が減少傾向となっています。
・新聞購読世帯の減少等により、地域での古紙回収量が減少傾向となっています。
・古紙や容器包装プラスチックなど資源物として再資源化できるものを、可燃ごみとして排出されることがあります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標（減量化、再資源化、最終処分量削減）に向けて、3つのコンセプト（減らす、育てる、考える）に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 ・市民及び事業者に向けて古紙の拠点回収場所等を引き続き周知し、利用促進を行います。 ・市民及び事業者に向けてごみの適正排出について引き続き啓発を行います。

分野	53	環境共生	通番 103
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
西山における森林保全活動の推進・啓発事業	一般	6	2	1	1,500,000	農林振興課

事業の概要

西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、多様な主体による森林保全活動の推進と啓発を促進します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	森林ボランティア団体数					単位	団体
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
23（令和元年度）	目標	23	23	23	23	23	
	実績	22	23	23			

・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や自然環境調査、小学校遠足に同行し自然体験学習の補助を実施しました。
・子どもたちの環境教育の推進・充実を目的とした「西山ファミリー環境探検隊」を実施しました。また、ボランティア行事として西山の放置竹林の伐採体験を実施するとともに、ボランティア団体の安全対策を目的としたボランティア養成講座を実施しました。

ボランティア養成講座（安全講習）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・昨年度より活動を開始した団体に対し継続して活動が行えるよう助言を行いました。 ・ボランティア養成講座を開催し、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性を構築することができました。また、安全講習を実施し、森林整備の際の安全に対する意識の向上を図りました。 ・ボランティア行事を開催し、ボランティア団体間の交流を図ることができました。
課題等	・西山森林整備推進協議会の活動内容や長岡京市の森林整備等をPRし行事への参加を促すなど興味を持ってもらう必要があります。 ・会員の高齢化と後継者不足に悩んでいるボランティア団体が多いため、活動内容のPRやボランティア養成講座を実施し新規ボランティア会員を確保する必要があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・既存ボランティア団体の担い手不足が問題となっていることから、モデルフォレスト活動に関心のある人に情報を発信していきます。 ・ボランティア活動を拡大したい団体に対して、活動候補地の選定や地権者との調整を行います。 ・既存ボランティア団体が学校等の遠足や課外活動などを受け入れる時などには、備品の貸出しや職員の派遣を行うなど、活動しやすい環境を整備します。

分野	53	環境共生	通番 104
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要

実施計画名称(予算事業名称)	予算科目				決算額(円)	担当課
	会計	款	項	目		
西山における森林整備推進事業	一般	6	2	1	24,861,159	農林振興課

事業の概要

西山の森林機能を維持・回復させるため、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備、危険木の処理を進めるとともに、京都西山再生プロジェクトにおいて生物多様性に富んだ森づくりに取り組みます。

令和5年度の取組

指標	西山森林整備面積(累計)					単位	ha
現　状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
306.73(令和元年度)	目標	320	328	336	344	352	
	実績	320	329	337			

・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計8.08ha実施しました。
・人工林については、3.80haの間伐と0.6haの下刈り、0.85haの枝打ちを実施し、二次林については、1.00haの改良を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す線的整備と点在する竹の除伐を1.15ha行うとともに、過去の線的整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を実施しました。また、台風等に起因する風倒木の単木伐倒処理と面的処理を0.68ha実施しました。
・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、新規植樹地を整備し獣害防止ネットの設置、98本の新規植樹を行いました。

放置竹林除伐実施地

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	西山の森林整備面積・整備率	これまで継続的に進めてきた森林整備活動により、西山の有する多面的な機能が徐々に回復しつつある。	49

達成度合	達成状況
A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	・現地調査を行い、整備箇所・整備方針を見直し、効率的に森林整備を行うことにより目標を達成できました。 ・計画的に木材を搬出できるよう整備計画を作成しました。

課題等

・森林整備を進めていくとともに、搬出した木材を公共施設等に積極的に活用し広く市民に西山をPRし、さらに学校教材等にも西山材を活用していただき若い世代にも興味を持ってもらう必要があります。
・伐採時期や整備箇所の選定など効果的に放置竹林対策を実施できるよう、専門業者と協議し現地調査を実施したうえで整備方法等を検討する必要があります。

次年度以降の対応

方向性	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	・森林整備により災害に強い森づくりを進めるとともに、台風等の災害が発生した場合は速やかに災害復旧を実施します。 ・整備計画に沿って利用間伐を実施し、木材を安定供給することで公共施設等の市内産木材の利用を推進します。 ・継続的に放置竹林対策を実施し、生物多様性や森林の持つ公益的機能の向上を図ります。

分野	53	環境共生	通番 105
施策	532	地域環境力の向上	
5年後の目標		“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
環境都市宣言啓発推進事業	一般	4	1	8	595,168	環境政策室

事業の概要

市民・団体・事業者等それぞれの主体が、その役割と責任を認識し、多方面で協働しながら、環境にやさしいライフ・ビジネススタイルの輪を広げ、持続可能な社会をつくります。そのため、環境に関する様々な学習会等を通じた啓発活動を実施するとともに、地域の中で環境を考える学び合いの機運を創出し、環境問題の「自分ごと化」を図ります。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		環境イベント・行事への参画主体数				単位	者
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
26（令和2年度）	目標	38	39	39	40	40	
	実績	33	39	43			

・令和5年度も、環境フェアと農業祭を合同で開催し、環境と関係性の深い「農」と併せてPRすることで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、分野横断的な啓発の場としました。
・市民ホールでは、「長岡京市産木材の利用が地球環境と地域産業にもたらす効果」と題した講演会を開催し、長岡京市の西山に対する取り組みについて啓発しました。
・星空観察会を夏・冬の2回、探鳥会を冬に1回開催し、大気汚染や光害に関する理解を深めるとともに、自然に親しむ事業を通じて、環境保全意識の高揚を図りました。

探鳥会

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・環境フェアを農業祭と合同で開催することで、より多くの団体と関わることができ、環境保全啓発のチャンネルを増やすことができています。これにより「市民（団体や事業者）から市民へ」の啓発をより強化することができました。
課題等	・環境問題を「自分ごと」として捉えてもらうためには、今後も「行政から市民へ」の啓発だけでなく、環境フェアのように「市民から市民へ」の啓発の機会を強化していくことが重要です。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・第三期環境基本計画に掲げるように、できるだけ啓発主体を増やし、「行政から市民への啓発」だけでなく、「市民から市民への啓発」を活発化させ、環境問題を身近な「自分ごと」として捉えてもらえる機会を確保していくことを重視していきます。

分野	54	都市環境	通番 106
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
無電柱化推進事業	－	－	－	－	－	まちづくり政策室

事業の概要

阪急長岡天神駅周辺や景観重点地区である八条ヶ池、景観沿道軸となる天神通りとアゼリア通り、府道西京高槻線の無電柱化を府と共に推進します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	無電柱化事業の進捗					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事着手	市役所前区間の工事推進・完成	八条ヶ池区間の検討	八条ヶ池区間の検討	
	実績	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事実施	市役所前区間の工事完成			

・京都府及び電線事業者と連携しながら無電柱化のための電線共同溝の整備工事を実施しました。

無電柱化事業後イメージ

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・市役所前区間の電線共同溝整備工事実施のための工程会議を適宜開催し、整備しました。
課題等	・八条ヶ池区間の無電柱化については、京都府事業のため継続した働きかけが必要です。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・市役所前区間の電線共同溝への電線等の敷設を関係各者と調整のうえ実施し、電柱を撤去します。 ・八条ヶ池区間の無電柱化に向け、事業主体である京都府へ働きかけます。

分野	54	都市環境	通番 107
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
西国街道再整備事業	一般	8	2	2	22,320,100	道路・河川課

事業の概要

平成12年度より整備された西国街道北部地域は、経年劣化による石畳の破損により、市民の日常生活に支障をきたしています。また、維持管理費については、年々増大しています。
よって、「長岡京市景観計画」に基づく旧街道軸で、景観に配慮した石畳の再整備を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	北部西国街道延長（L=1050m）の整備率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	道路設計業務	10.5	41.0	70.5	100.0	
	実績	道路設計業務	28.6	68.6			

・北部西国街道（市道第4021号線）について、その2工事として420mの再整備を実施しました。

西国街道再整備工事その2

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・地元等と協議・調整した上で決定した再整備方法に基づき、その2工事を実施し、完了しました。
課題等	・施工業者との入念な調整により、夜間施工での交通規制や騒音対策を図る必要があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
2：進め方の改善の検討が必要	・当初、令和4年度より4ヶ年計画となっていましたが、地元への工事におけるリスクを考慮し、令和6年度で工事全体を完了させます。

分野	54	都市環境	通番 108
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
みんなが憩い楽しめる 魅力ある公園づくり事業	一般	8	4	4	51,461,300	公園緑地課

事業の概要

幼児から高齢者までの多様な年齢層の人たち、障がいのある人もない人も誰もが楽しみ、交流できる公園づくりに向け、西山公園第3期整備と民間と連携した長岡公園の再整備を行います。

令和5年度の取組

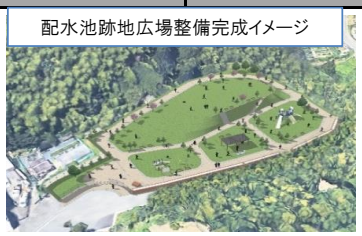
D（取組）

指標①	西山公園第3期整備計画の進捗					単位	―
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
基本設計 （令和2年度）	目標	測量・実施設計	用地買収	配水池解体工事	整備工事	整備工事完了	
	実績	測量・実施設計（新池護岸部分完了）	用地買収・新池護岸整備工事・実施設計	配水池解体工事・駐車場実施設計完了			

指標②	長岡公園再整備の進捗					単位	―
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標			設計	整備工事完了	―	
	実績			設計			

指標①
・配水池の解体工事を実施しました。
・駐車場の実施設計等業務を実施しました。
指標②
・設計を実施しました。

配水池跡地広場整備完成イメージ



施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	指標① ・配水池解体工事を年度内に完了しました。 ・駐車場の実施設計等業務を年度内に完了しました。 指標② ・設計を年度内に完了することができませんでした。
課題等	指標① ・地元との合意形成を図りつつ、整備を進めていく必要があります。 指標② ・設計に遅れが生じており令和6年度の工事完了が難しい状況ですが、令和7年度の工事完了を予定しています。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	指標① ・配水池跡地の広場整備工事を実施します。 ・駐車場の整備工事を実施します。 指標② ・再整備の工事を実施します。

分野	54	都市環境	通番 109
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民協働緑化事業	一般	8	4	4	15,043,000	公園緑地課

事業の概要

公益財団法人長岡京市緑の協会と共に、みどりのサポーター制度の促進を図り、市民による公園等の緑化及び環境美化活動を進めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		みどりのサポーター活動団体数				単位	団体
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
100（令和元年度）	目標	106	109	112	115	118	
	実績	110	109	106			

・令和5年9月に中央公民館にて「第18回みどりで笑顔のつどい」を開催し、86名の参加者のもと植付けや活動報告を行いました。
・令和4年度に引き続き、立命館高校の総合学習で地域課題として「みどりのサポーター制度による公園等の緑化及び環境美化活動の推進について」を提示し、高校生とともにみどりのサポーター登録者数を増やす方法について考えました。
・（公財）長岡京市緑の協会は、緑の講習会を年5回、出前講座を年6回開催し、合計173名の参加がありました。

第18回みどりで笑顔のつどい

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・みどりのサポーターは、令和5年度末時点で106団体、1,293名の登録があり、目標は概ね達成しました。
課題等	・10年以上活動しているみどりのサポーター団体が令和5年度末時点で47団体ある一方で、高齢化を理由に退会する団体が年間数団体あり、令和5年度については新規登録に比べ退会が多くなりました。そのため、今後においても高齢化等による退会が予測され、みどりのサポーター登録団体が減少する可能性があります。 ・みどりのサポーター制度のPRが例年同じ方法で認知度が限定的なため、PR法を検討する必要があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・みどりのサポーター登録者に日々の活動に対するモチベーションを維持していただくため、サポーター間の交流を深める「みどりで笑顔のつどい」の運営支援を行います。 ・引き続き、はっぴいバスへの広告掲載やホームページ等でみどりのサポーター制度をPRしつつ、市民への制度の認知度を高め、新たな担い手を増やしていけるように、広報紙の活用や公共施設へのチラシの配架、また駅前の人通りが多い場所でのデジタルサイネージを活用した広報を検討します。

分野	54	都市環境	通番 110
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
公園施設長寿命化事業	一般	8	4	4	57,420,000	公園緑地課

事業の概要

公園施設を快適かつ安全に使っていただくため、公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の更新や修繕を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		公園の施設整備数				単位	公園
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
17（令和2年度）	目標	25	28	37	43	58	
	実績	25	32	39			

・柴の里公園他6公園の長寿命化対策工事を実施しました。
・令和元年度に策定した「長岡京市公園施設長寿命化計画」の86公園を見直し、新たに対象公園を83公園追加しました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	—	—	—

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・柴の里・野添北・花山・うぐいす台南・薬師堂・南浦北・天神三丁目公園の長寿命化対策工事を実施しました。 ・老朽化した遊具24基とベンチ等の施設16基を更新しました。
課題等	・公園施設の安全性確保のため定期的な健全度調査や日常点検を実施し、計画の補完・修正を毎年行う必要があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・安全・安心で快適に利用していただくため、老朽化した公園施設の更新・修繕等を計画的に進めます。

分野	54	都市環境	通番 111
施策	543	生活環境の保全	
5年後の目標		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
環境監視事業	一般	4	1	7	3,971,440	環境政策室

事業の概要

大気・水質、騒音などの状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	小畑川、小泉川の透視度：30cm以上、BOD：2mg/L以下、PH：6.5～8.5の維持状況	単位	―

現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7
小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：7.9 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：7.9 【R2年2月時点数値】	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
	実績	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：1.1mg/L PH：7.5 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L PH：7.8	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L PH：7.7 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：8.0	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.7mg/L PH：8 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.6mg/L PH：8.0		

・大気、水質、騒音の検査を実施し環境基準と比較しました。
・地下水及び河川の調査を15か所で実施しました。
・大気調査は67か所で実施しました。
・環境騒音及び自動車騒音の調査を31か所で実施しました。
・それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有に努めました。

小泉川

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	小畑川・小泉川の主要河川水質指標	PH値（水素イオン濃度）6.5～8.5、BOD（生物化学的酸素要求量）2mg/L以下であり、水質指標を達成していました。	53 54

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100％以上）	達成状況	・河川調査では、6河川8地点で年4回調査を行ったところ延べ243項目が基準値内でした。 ・地下水の水質調査では、農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められました。超過した項目は、地質といった自然由来の影響で超過することがあります。農業用の水質基準は達成していました。 ・大気調査は、環境基準の超過はありませんでした。 ・騒音調査では、3か所で一時的に環境基準を超過していましたが、自動車騒音については道路交通法に基づく措置が必要となる要請限度は超過していませんでした。

課題等	・大気、水質、騒音など環境保全の分野は範囲が広いため、広い視野と専門的な知見、技術を継承しながら取り組むことが必要です。 ・環境基準を超過した項目がある地点について、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への啓発が必要です。そのため、今後も継続して生活環境保全のための監視を行い、状況に応じて啓発や指導を行います。 ・専門的分野に対応するため、京都府等の研修により知見を深めるとともに、委託も活用しながら環境監視を行います。 ・大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。 ・環境基準を超過した項目、地点については京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有をしながら監視を継続します。

分野	55	水資源	通番 112
施策	551	水資源の保全	
5年後の目標		企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
水道の安定供給に係る 水資源保全事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	水道施設課

事業の概要

地下水を将来にわたり、水道水源として利用するために、地下水を採取する井戸（取水井戸）の保全及び地下水の水質管理を適切に行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標①	取水井戸の稼働本数					単位	本
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
6（令和元年度）	目標	6	6	6	6	6	
	実績	6	6	6			

指標②	水道水源の水質検査（地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査）回数					単位	回／年
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
12（令和元年度）	目標	12	12	12	12	12	
	実績	12	12	12			

・全取水井戸について職員による巡視点検を毎日（平日）行いました。
・全取水井戸について水位測定を毎月行いました。
・取水井戸の修繕（仕切弁）を行いました。
・全取水井戸について水質検査（地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査）を毎月行いました。

取水井戸

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	一般向け府営水ブレンド率 市内井戸における地下水位回復状況	府営水ブレンド率が50%程度で推移し、二元水源による水道水の安定供給を維持できています。 地下水採取の適正化及び取水井戸の保全が市内井戸における地下水位の回復に寄与しています。	57 58

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・取水井戸の稼働本数（6本）を維持することができました。 ・取水井戸の巡視点検を毎日（平日）行うことで、設備トラブルの防止及びトラブル発生時の早期発見、即時対応により、設備保全を適切に行うことができました。 ・取水井戸の水位測定を毎月行うことで、地下水の適正利用が可能となりました。 ・水質検査を毎月（12回/年）行うことで、水道水源として利用するための安全性を確認することができました。（検査結果は、本市ホームページに掲載しています）

課題等	・水道水の安定供給に必要となる揚水量の確保 ・取水施設の老朽化 ・水道水源として利用するための地下水水質

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・取水設備の安定稼働を維持するために、巡視点検を行います。 ・取水井戸の適正利用を維持するため、取水井戸の水位測定を毎月行います。 ・水道水の安定供給に必要な揚水量を確保するために、取水設備の適宜更新を行います。 ・水道水源としての安全性を確認するために、定期的に水質検査を行います。

分野	55	水資源	通番 113
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
低廉な水の安定供給事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	上下水道総務課

事業の概要

地下水と府営水道の二元水源により安全で安心な水道水を安定供給することと併せて、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標①	水道水における府営水ブレンド率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
50.8（令和元年度）	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	実績	4月～9月 50.0 10月～3月 100.0	4月～5月 100.0 6月～3月 51.4	51.2			

指標②	有収率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
95.85（令和元年度）	目標	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	
	実績	96.5	96.3	96.3			

・市民向けには、地下水と府営水道を受水し、ブレンド率51.2%で水道水を供給しました。
・令和4年度からの継続事業である東第2浄水場中央監視操作設備及びテレメータ更新工事を実施するほか、東第2浄水場に係る送水ポンプ取替工事、ろ過機ろ材入替工事等を行い、計画的な設備更新に努めました。
・主要基幹管路の耐震化や計画的な更新、老朽化した配水管の布設替工事を努めることで、昨年に引き続き96.3%と類似団体や全国平均以上の高い有収率を確保することができました。

更新した中央監視操作設備

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・東第2浄水場耐震補強他工事が令和4年度に完了したことから、1年を通じて市民向けのブレンド率の目標である50%付近での水道水の供給ができました。 ・計画的な管路の更新、漏水の維持修繕を進めることで、目標値を上回る有収率を確保することができました。
課題等	法定耐用年数の超過が見込まれる管路等の更新について、上下水道ビジョンの投資・財政計画に基づく限られた財源のなかで、管路の老朽化の程度及び重要度等を整理し、優先順位を見直しながら計画的な更新を行う必要があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	令和6年度については、現上下水道ビジョンに基づき事業を進めます。また、令和7年度以降については、現在見直しを進めている同計画の課題を反映の上、計画上の取り組みを進めます。

分野	55	水資源	通番 114
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
水道施設の耐震化事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	水道施設課

事業の概要

自然災害や経年劣化による水道施設の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも時間を要します。自然災害等に負けない強靭な水道施設とするため、計画的に耐震化を進めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標①	上水道基幹管路耐震化率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
34.1（令和元年度）	目標	37.3	37.3	37.5	38.5	39.3	
	実績	36.0	36.5	36.6			

指標②	浄水施設（東第2浄水場）の耐震化率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	0	100				
	実績	0	100				

・長岡京市上下水道ビジョン（令和2年度～11年度）に基づき、耐用年数を超過した基幹管路の耐震化工事を、神足芝本地内において実施しました。
・令和3年度に着手した東第2浄水場耐震補強他工事が令和4年度に竣工し、浄水施設（東第2浄水場）の耐震化率が100%となりました。

耐震管の布設状況

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	水道基幹管路の耐震化率	平成9年度より基幹管路の耐震化に着手し、令和2年度からは長岡京市上下水道ビジョンに基づき耐震化を進めており、耐震化率は年々上昇傾向にあります。	55

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・長岡京市上下水道ビジョンに基づき、耐用年数並びに重要度等を考慮して工事を実施した結果、目標数値を満たすことはできなかったものの一定の耐震化を進めることができました。

課題等	・基幹管路の耐震化については、長岡京市上下水道ビジョンに基づき、管路の耐用年数並びに重要度、また市民生活への影響が大きい箇所を優先的に選定する必要があります。 ・施工にあたり長い期間と多額の費用が必要になることや外的な制約が数多く発生します。また、周辺住民に対して周知及び理解を図ることが必要になります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、長岡京市上下水道ビジョンに基づき、管路の耐用年数や重要度、市民生活への影響度が大きい箇所を優先的に選定します。 ・円滑に工事を実施するために各占用者との協議、並びに周辺住民への周知及び理解を図った上で、効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	55	水資源	通番 115
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
鉛製給水管の取替促進事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	水道施設課

事業の概要

蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	鉛製給水管残存率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
9.0（令和元年度）	目標	8.3	7.5	6.8	6.0	4.8	
	実績	6.0	5.4	4.6			

・令和2年度から、長岡京市上下水道ビジョン（令和2年度～11年度）に基づき、市内一円における給水管取替工事、管路更新工事に伴う取替及び修繕等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。
・工事実施にあたり、施工箇所が対象者の敷地内に及ぶ場合が多く、事前に対象者との協議を行い、円滑に施工が行えるよう調整しました。

鉛製給水管の取替状況

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・市内一円の給水管取替工事の他、管路更新工事や修繕等に合わせて実施しています。取替にあたり、集合住宅地や隣接箇所を選定する等効率良く進め、目標を達成しています。

課題等	・事業の進捗に伴い、まとまった地区での更新はほぼ完了し、近年では対象箇所の点在により選定が難しくなっています。 ・確実に取替を進めていくためには、効率良く実施できる箇所の選定や所有者の理解と協力が必要となります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・対象箇所が市内に点在しているため、他工事等とも調整を図りながら実施箇所の拡充を図ります。 ・取替実施にあたり、事前に所有者や周辺住民への周知説明により理解と協力を得て取替を進めます。

分野	55	水資源	通番 116
施策	553	下水の適正処理	
5年後の目標		下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
下水道長寿命化事業	会計 款 項 目 公営企業会計	－	下水道施設課

事業の概要

計画的かつ効率的に管路の管理を行うため、ストックマネジメント計画及び上下水道ビジョンと整合をとりながら全管路の状態を計画的に点検します。点検結果により不具合が見つかった箇所の調査を実施し、その調査結果を基に改築・更新・修繕を計画的に進めます。

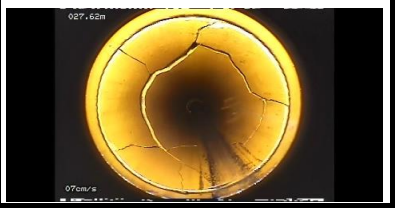
令和5年度の取組

D（取組）

指標		管きょの点検率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
5.97（令和元年度）	目標	ストックマネジメント計画の変更	13.35	17.07	20.79	24.51	
	実績	ストックマネジメント計画の変更	13.45	17.08			

・布設年度の古い陶管を優先対象として約8.52kmの点検を実施し、管きょの全延長に対する点検率は17.08%となりました。

管内状況（破損A）



施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・年間点検延長8.5kmに対し8.52kmの点検を実施し、計画通り管路における異常の有無を確認することができました。

課題等	・ストックマネジメント事業全般において、国費等の財源を確保する必要があります。 ・異常が確認された箇所については詳細調査を実施し、対策が必要とされた箇所には改築・修繕を行っていく必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・ストックマネジメント計画に基づき、布設年度の古い陶管を優先対象とし、年間約8.5kmの点検を実施します。